長岡市長賞

税に支えられている私の夢

新潟大学附属長岡中学校
三年　加藤　梨央奈

税の作文を書くという話題になった。「税と言えば？」という問いに、妹は「買い物」と答えた。父は「オヤジが免許返納出来る仕組みづくりに税金を投入してほしい」と言った。母は「雪国新潟の除雪作業に使われている」と話した。私はというと学校で学習した政治関係のイメージが強かった。そこで身の回りの税について考えてみることにした。すると母が「遠征の時に補助を受けている。あれは税金じゃない？」と話してくれた。

私は週５回プールへ通い飛び込み競技を小２から続けている。毎日施設を利用させてもらっている。また年に数回大会で他県へ赴き遠征も連れていってもらっている。両親が支払ってくれている金額ではまかないきれない経験をさせてもらっている。でもどこから？と気になったので私のコーチに聞いてみた。すると新潟県からは、新潟ジュニア育成事業、国スポ強化事業、オリンピックアスリート夢チャレンジの補助、長岡市からは指定種目強化事業助成金をいただいている。遠征時の宿泊代、プール使用料、移動費。税金は道路や施設を新しくするためだけに費やされているだけではなく、私の日々の生活も税金で支えられている事を知った。

そして今年は二〇二四年パリオリンピック開催の年！インターネットで「税・スポーツ」と入力するとスポーツに税金を使うのはムダ使いだという批判的意見もある。だけど選手の頑張りや涙、すべてが世界中の人の心をあつくしているスポーツに税金もつかわれているって国民としてほこらしく思った。

私は当初、「日本人はこんなにメダルが取れるの？」と思っていた。が、そう簡単な事じゃない。選手の努力や周りのサポートはもちろんのこと。住んでいる市、町、村、県、そして日本中の人々の税金が選手の活動費となり支えられて、こういった素晴しい成績に結びついているんだということに気づいた。みんなで応援して、喜んで、とても幸せな使い道なのではないか。オリンピックの見方がガラッと変わった。自分一人の努力じゃないんだ。

今回、税金に対して考える機会を与えられなければ自分には直接関係ないなと思いつづけていただろう。税金とは大人になったら納めるだけで、使い道を知ることはなかっただろう。私は今税金のおかげで練習できていると言っても過言ではない。

今の私にしかできない事を一瞬一瞬大切に積み重ねていきたいと思っている。このありがたい恩恵を受けるためには与えられた時間の中で練習を続け、着実に結果にむすびつけて自分だけではなく、長岡市の発展のためにも頑張っていきたい。